

千葉県生物多様性センター 年報 6

平成25年度（2013年4月～2014年3月）



千葉県生物多様性センター
Chiba Biodiversity Center

表紙の写真：生命の^{いのち}にぎわい調査団平成25年度写真コンテストの最優秀賞

「ド迫力！（コミミズク）」 撮影：和田 信裕

千葉県で見られるフクロウの仲間では唯一、草原に生息しています。12月頃飛来し、まだ日が暮れない明るい時間帯から低く飛びまわり、狩りをします。主にネズミ類を餌として冬を過ごし、4月中旬頃、シベリアなどへ向けて飛び去ります。1970～80年代には東京湾岸の埋立地でよく見られましたが、開発とともに姿を消し、現在、県内に安定した越冬地はありません。千葉県レッドデータブックでは最重要保護生物に指定されています。

裏表紙の写真：生命の^{いのち}にぎわい調査団平成25年度写真コンテストの優秀賞

「エナガ5兄弟」 撮影：和田 敦子

エナガは体がとても小さく、成鳥でも体重が8グラムほどしかありません。15年ほど前までは山の小鳥と思われていましたが、徐々に市街地でも繁殖するようになりました。しかしながら、なぜ急に市街地に進出できたのかは解明されていません。この写真のように巣立ったヒナたちが身を寄せ合う「エナガ押し」は有名で、これを見たいと多くの愛好家が春を楽しみにしています。

はじめに

生物多様性条約の世界目標である愛知目標には、20の個別目標がありますが、これらは平成27年又は平成32年が達成期限となっています。例えば、「遺伝資源の取得の機会及びその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分に関する名古屋議定書」の施行・運用は平成27年が期限であり、本年10月12日には同議定書が発効したところです。

環境省では、平成32年までの目標達成に向け、種の保存法に基づく国内希少野生動植物種の300種新規指定、外来種被害防止行動計画や侵略的外来種リストの作成を進めるなどの取組を加速させています。

一方で、最近国が行った世論調査では生物多様性に関する国民の関心が薄らいでいることも示されています。

平成22年の生物多様性条約第10回締約国会議以来取り組まれている生物多様性の主流化は、決して容易なことではありません。

本県では、生物多様性センターを中心に、生物多様性の主流化に向け、多様な主体との連携・協働を進めています。その一環として、平成25年4月には「生物多様性ちば企業ネットワーク」を立ち上げ、企業の取組を支援しています。

引き続き、県民、市民活動団体、企業、教育・研究機関、市町村、国等様々な主体との連携を進めることにより、生物多様性の主流化に努めてまいります。

平成26年12月

千葉県環境生活部自然保護課長 伊藤 亮一

生物多様性センターの様々な活動



生物多様性に関する市町村職員研修会（佐倉市）



生物多様性ちば企業ネットワーク勉強会（千葉市）



エコメッセ2013in ちば 出展（千葉市）



いすみふるさとまつり 出展（いすみ市）



ヒメコマツ観察会（君津市）



連携大学の研究成果発表会(東京情報大学)

生物多様性センターの様々な活動



JICA研修（県立中央博物館）



生命のにぎわい調査団現地研修会（いすみ市）



生命のにぎわい調査フォーラム（県立中央博物館）



シャープゲンゴロウモドキの生息状況調査



ミヤコタナゴの生息状況調査



カミツキガメ捕獲作業（高崎川）

千葉県生物多様性センター 年報6 平成25年度

もくじ

はじめに	i
生物多様性センターの様々な活動（写真）	ii
もくじ	iv
 I 生物多様性センターの概要	
組織・分掌等	2
センターの機能	3
平成25年度活動カレンダー	4
 II 平成25年度主要事業のまとめ	
絶滅危惧種の保護にむけて	6
絶滅の危険性の評価	8
外来生物の脅威から生態系を守る	10
哺乳動物と人との共存をめざして	12
生物多様性情報の収集・管理・提供	14
県民参加型の生物モニタリング調査	16
里山里海の生物多様性保全に関わる事業への参加と協力	18
ウェブサイトによる情報発信	19
生物多様性ちばニュースレターの発行	20
イベントによる情報発信	21
ビオトープの推進	22
生物多様性サテライトの設置	23
大学との連携	24
企業との連携	25
 III 平成25年度他機関への支援活動・研究業績等のまとめ	
他機関への支援活動・研究業績等	28

I

生物多様性センターの概要

生物多様性センターの概要

1 設置の目的

生物多様性センターは、平成20年3月26日に策定された「生物多様性ちば県戦略」の推進を図ることを目的に、平成20年4月1日に設置されました。

2 設置場所

生物多様性センターは、千葉県立中央博物館の中に設置されており、中央博物館と連携を保ちながら業務を行っています。

住所：〒260-8682

千葉市中央区青葉町955-2（千葉県立中央博物館内）千葉県生物多様性センター

電話：043-265-3601

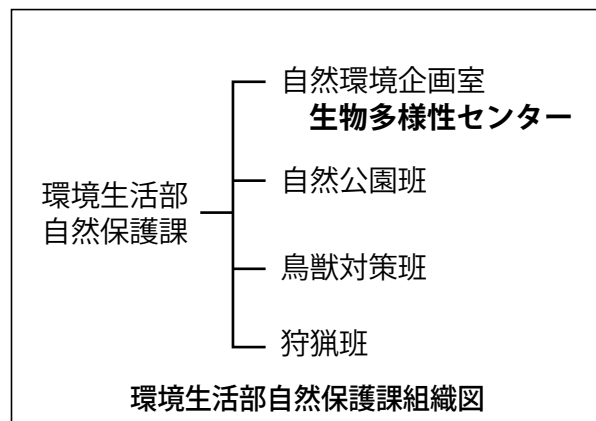
FAX：043-265-3615

e-mail：bdc@mz.pref.chiba.lg.jp

3 組織

生物多様性センターは、右図のとおり千葉県環境生活部自然保護課自然環境企画室に属しています。

平成26年3月現在の生物多様性センターの職員は9名です。



4 主な分掌

生物多様性センターの平成25年度の主な分掌は下記のとおりです。

- ・ 生物多様性ちば県戦略の推進に関すること
- ・ 生物多様性に係る基礎情報の充実・提供に関すること
- ・ 生物多様性に係る地域等の取組支援に関すること
- ・ 生物多様性に係る環境学習の推進に関すること
- ・ 希少野生動植物の保護に関すること
- ・ 外来生物（アカゲザル、アライグマ、キョンを除く）の対策に関すること
- ・ 三番瀬等の自然環境調査（助言等）に関すること
- ・ 生物多様性についての情報収集、管理、提供に関すること
- ・ 生物多様性についての教育普及に関すること
- ・ 生物多様性の保全・再生・利用のための現場指導に関すること

センターの機能

生物多様性センターの概要

5 機能

生物多様性センターでは、「生物多様性ちば県戦略」の推進に必要な下記の機能を担っています。

○生物多様性に関する情報の収集・管理・提供・公開

- ・生物多様性に関する各種情報を収集し、提供します。
- ・千葉県に保有する生物多様性に関する既存情報を整備し、地理情報システム上で一括管理します。
- ・今後新たに得られた情報についても効率的に収集するシステムを構築し、順次整備していきます。
- ・地理情報システム上でデータベース化された情報は、生物多様性の効果的な保全に活かされます。
- ・これらの情報を様々な形式で一般の方から研究者まで広く提供します。

○生物多様性に関する調査研究

生物多様性に関する調査研究を推進するとともに、モニタリング体制を整備します。そのために、野生動植物の生息・生育状況とその経年変化を把握し、地球温暖化等の気候変動や人間活動が生物多様性に与える影響を探り、その対策を研究します。

○シンクタンク機能

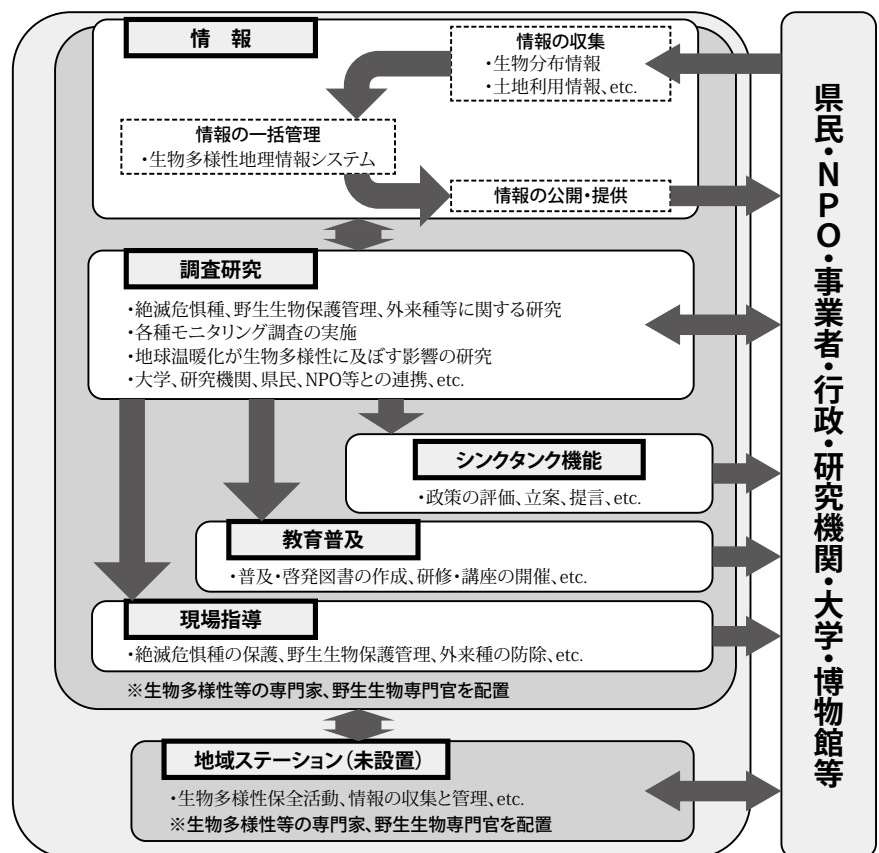
科学的な根拠に基づき、施策の評価、立案、提言を行います。

○生物多様性に関する教育普及

「生物多様性」及び「生物多様性ちば県戦略」の普及・啓発を図るため、各種図書の作成をはじめ、ニュースレターの発行、研修会・講座の開催等を行います。

○生物多様性に関する現場指導

野生動植物の保護管理、生態系の保全・再生、生物多様性を一体的にとらえた地球温暖化対策の推進等、現場に即した指導・助言を行います。



生物多様性センター機能概念図

平成25年度活動カレンダー

平成25年

- 2013年 5月 ・ニュースレター No.33 発行 (5/31)
- 6月 ・谷津干潟の日出展 於：谷津干潟自然観察センター前広場(習志野市)(6/1～2)
- ・いんざい環境フェスタ出展 於：イオンモール千葉ニュータウン(印西市)(6/2)
- ・2013ちばし環境フェスティバル出展 於：千葉市文化センターアートホール(6/5)
- ・第16回ふなばし環境フェア出展 於：船橋市中央公民館(6/8)
- ・第2回袖ヶ浦市環境フェスタ出展 於：袖ヶ浦市民会館(6/9)
- ・エコフェアいちばら出展 於：市原市勤労会館(6/15)
- ・いちかわ環境フェア2013出展 於：千葉県立現代産業科学館(市川市)(6/15)
- 7月 ・生物多様性ちば企業ネットワーク勉強会開催 於：東京情報大学千葉ステーションキャンパス(7/4)
- ・生命(いのち)のにぎわい調査団現地研修会開催 於：夷隅川河口(いすみ市)(7/6)
- ・生物多様性サテライト開設 NTT東日本千葉支店(光HOUSE千葉/千葉市)(7/12)
- ・大学との連携協定に基づく第9回連絡会議開催(7/25)
- ・ニュースレター No.34 発行(7/31)
- 8月 ・生物多様性に関する市町村職員研修会開催(8/6)
- ・平成25年度授業に役立つ生物多様性研修開催 於：千葉県総合教育センター(千葉市)(8/21)
- 9月 ・第11回企業と生物多様性セミナー開催 於：東京情報大学千葉ステーションキャンパス(9/12)
- ・エコメッセ2013 in ちば出展 於：幕張メッセ国際会議場(9/28)
- 10月 ・ニュースレター No.35 発行(10/31)
- 11月 ・いすみふるさとまつり出展 於：いすみ市岬運動場(11/3)
- ・長南フェスティバル出展 於：長南町役場(11/3)
- ・自然系調査研究機関連絡会議(NORNAC)取組発表 於：奥能登総合事務所、石川県のと海洋ふれあいセンター(石川県)(11/6～7)
- ・生物多様性ちば企業ネットワーク勉強会開催 於：東京情報大学千葉ステーションキャンパス(11/14)
- ・第22回富里市リサイクルフェア出展 於：富里中央公園イベント広場(11/17)
- ・連携大学の研究成果発表会開催 於：東京情報大学(千葉市)(11/30)
- 12月 ・生命(いのち)のにぎわい調査団現地研修会開催 於：手賀沼親水広場水の館及び手賀沼遊歩道(我孫子市)(12/7)

平成26年

- 2014年 1月 ・生物多様性サテライト開設 キッコーマン(株)(もの知りしょうゆ館/野田市)(1/21)
- ・ニュースレター No.36 発行(1/31)
- 2月 ・第12回企業と生物多様性セミナー開催 於：東京情報大学千葉ステーションキャンパス(2/18)
- ・大学との連携協定に基づく第10回連絡会議開催(2/20)
- ・研究報告第7号 発行(2/28)
- 3月 ・「生命(いのち)のにぎわい調査フォーラム」「調査団員写真コンテスト」開催(3/15)
- ・ヒメコマツ観察会 於：千葉県立清和県民の森(3/16)
- ・研究報告第8号 発行(3/31)
- ・ニュースレター No.37 発行(3/31)
- ・パンフレット「ちばの生物多様性」第2版発行(3/31)

Ⅱ

平成25年度主要事業のまとめ

絶滅危惧種の保護にむけて

絶滅危惧種対策事業

1 絶滅危惧種対策事業

生物多様性センターでは、県内の絶滅危惧種のうち、特に生息・生育状況が悪化しており、人による積極的な保護がなければ、絶滅する可能性が極めて高いシャープゲンゴロウモドキ（図1）とヒメコマツ（ゴヨウマツ）について、平成20年度から地元自治体、関係NPO、学識経験者、水族館等で構成される保全協議会を設置して、回復計画の検討を行い、平成21年度末に「千葉県シャープゲンゴロウモドキ回復計画」及び「千葉県ヒメコマツ回復計画」を策定しました。平成25年度は、シャープゲンゴロウモドキ保全協議会を1回、ヒメコマツ保全協議会を1回開催して具体的な取組について協議を行い、各回復計画に基づいた保護活動が行われました。

○平成25年度の取組

【シャープゲンゴロウモドキ】

シャープゲンゴロウモドキは、ゲンゴロウモドキ属の水生昆虫で、千葉県では「最重要保護生物（A）」に、環境省のレッドリストでは「絶滅危惧Ⅰ類」に選定されており、全国的に絶滅の危険性が高い生きものです。特に、千葉県に生息している関東型と呼ばれる亜種は、かつて関東地方に広く分布していましたが、現在では千葉県のごく一部の地域に生息が確認されるのみとなっています。そのため、平成23年4月1日に環境省により「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（種の保存法）の「国内希少野生動植物種」に指定され、捕獲や譲渡等が禁止されました。

平成25年度は生息地における生息状況の調査や生息環境の維持管理（草刈や水域の維持）を実施しました。生息地において確認された成虫及び幼虫の個体数は153個体でした（図2）。さらに、本種は現在の生息数が極めて少なく、個体群が不安定な状況であるため、鴨川シーワールドにおいて、系統保存を継続しています。なお、捕食者と



図1 捕獲されたシャープゲンゴロウモドキ

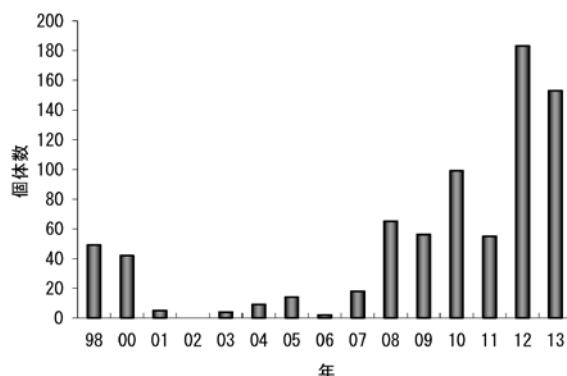


図2 シャープゲンゴロウモドキ確認個体数の年次変化

してシャープゲンゴロウモドキに悪影響を及ぼす外来種のアメリカザリガニについては、平成24年度以降は生息地周辺での生息が確認されておりませんが、今後も再度定着することのないように監視を継続しています。

そのほか、関係NPOによる生息地のパトロール、地元小学校の観察会、各種会合等における回復計画の周知などの活動を行いました。新規の生息地の探索も行いましたが、新たな発見はありませんでした。

【ヒメコマツ】

ヒメコマツは、東北南部以南の太平洋側（本州・四国・九州）の山地に分布します。最終氷期には広範に分布していたものが、その後の温暖化に伴い局所的に残ったと考えられており、その中

でも特に房総丘陵の個体群は、他から孤立した特異な存在であるだけでなく、房総半島の植物相や植生の成立を考える上で重要な生物です。しかし近年その数を急速に減らし、確認された全生育数は100個体未満にまで減少しています。

平成25年度は、生育状況・繁殖状況のモニタリングを行うと共に、東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林・県農林総合研究センター森林研究所等によって、系統保存個体の維持管理、さし木試験等を実施しました。新たな枯死個体は確認されず、3地点で調査した球果数はどの地域でも過去5年間で2番目に多く、豊凶の年変化パターンは同調が認められました。

「補強試験」としてかつての自生地への植栽を平成23年度に行った清和県民の森で、移植苗周辺の草刈りと生育確認を行いました。植えつけた28個体はほぼ順調に生育していました。

「試験植栽」として「ちば千年の森を作る会」の協力のもと補植した君津市豊英の通称「豊英島」では、観察会をかねて生育状況調査を行いました。38個体のうち新たに1個体が枯死し、生存しているのは32個体となりました。



図3 試験植栽地での生育状況調査

センターのウェブサイトをご覧ください。
http://www.bdcchiba.jp/endangered/recovery_plan/himekomatsu/himeko_index.html

2 ミヤコタナゴ保護増殖事業

ミヤコタナゴは、湧水を水源とする細流やため池などに生息するコイ科タナゴ亜科の淡水魚です。かつては関東地方に広く分布していましたが、都市化に伴う生息環境の悪化により、現在は千葉県と栃木県の一部にのみ分布しています。

本種は、「種の保存法」により「国内希少野生動植物種」に指定されているほか、「文化財保護法」により「天然記念物」に指定されています。

生物多様性センターでは、本種の保護増殖を図ることを目的に、生息状況の把握や生息水路等の環境維持ならびに個体群の系統保存等を行っています。

○平成25年度の取組

環境省受託事業「希少野生動植物種保護増殖事業（千葉県ミヤコタナゴ）」として、県内で生息地のある茂原市、いすみ市、夷隅郡御宿町、勝浦市においてミヤコタナゴや産卵母貝であるイシガイ科二枚貝類（図4）の生息状況調査を行いました。



図4 産卵母貝となるイシガイ科二枚貝類

また、生息水路内の環境を維持するため、水路の補強や不適な植物、外来種等の除去を行ったほか、関係市町担当者による情報交換会議を行いました。

ミヤコタナゴの個体群維持については、人工下での適切な飼育繁殖を行うことができる施設を持つ千葉県水産総合研究センター内水面水産研究所、及び（公社）観音崎自然博物館において、飼育下個体数の増加を図り、生息地ごとに系統保存を行いました。

絶滅の危険性の評価

千葉県レッドデータブックの改訂

1 レッドデータブックとは何か

レッドデータブック Red Data Book (RDB) とは、絶滅のおそれのある野生生物に関する情報をまとめた本です。種（あるいは、亜種、変種）ごとに絶滅の危険性をランクとして評価し、形態や性質などの特徴、生息・生育状況、分布、保護対策などが記述されています。一方、リストだけのものをレッドリスト Red List (RL) と呼びます。

2 これまでの経緯

千葉県では平成7年度からレッドデータブックの編纂を開始し、平成10年度に「千葉県の保護上重要な野生生物―千葉県レッドデータブック―植物編」を発行しました。そして平成11年度に「動物編」、平成12年度に「普及版」を発行しました。その後に得られた情報に基づいて、平成15年度にレッドリスト「植物編」、平成17年度にレッドリスト「動物編」を発行しました。

平成19年度からは「生物多様性ちば県戦略」を推進する取組の一つとしてレッドデータブックとレッドリストの定期的な見直しを行っています。動物8名及び植物6名の専門家からなる千葉県レッドデータブック改訂委員会が組織され、改訂作業が始まりました。そして、平成20年度には「千葉県の保護上重要な野生生物―千葉県レッドデータブック―植物・菌類編2009年改訂版」が発行されました。平成21年度には動物編の改訂に着手し、平成22年度は「千葉県の保護上重要な野生生物―千葉県レッドデータブック―動物編2011年改訂版」を発行しました。

平成23年度には千葉県レッドデータブック植物・菌類編、動物編に続き、群集・群落編（仮称）の発行に向け、県内の生物の生息及び生育状況に関して、専門的見地から評価を行う、「千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成委員会」を設置しました。本委員会は、侵略的外来生物の生息及び生育状況に関しての評価も行います。

さらに、本委員会の指示のもと、委員会の行う業務を補佐する分科会も設置しました。哺乳類分科会、鳥類分科会等の分科会は、各分野の専門家から構成されています。

また、平成25年度途中に作成委員会の任期が切れたため、設置要綱を見直して、動物8名と植物・菌類7名の専門家からなる「千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成検討会」に再編して、引き続き見直し作業を行っています。

3 平成25年度の取組

○千葉県レッドデータブック 群集・群落編（仮称）の編集

平成25年度には、千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成検討会を1回、同委員会/検討会内に設置された群集・群落部会を2回開催し、群集・群落編（仮称）について検討を行いました。



リスト作成検討会

4 入手方法について

「千葉県の保護上重要な野生生物―千葉県レッドデータブック―植物・菌類編2009年改訂版」、「同 動物編2011年改訂版」「同 追録」は、生物多様性センターのウェブサイトから全ページをダウンロードできます。また、植物・菌類編及び動物編については、千葉県文書館で冊子体を有償頒布しています。

5 これまでに発行された千葉県のレッドデータブックとレッドリスト一覧

○レッドデータブック

- 平成11（1999）年 千葉県の保護上重要な野生生物―千葉県レッドデータブック―植物編
 平成12（2000）年 千葉県の保護上重要な野生生物―千葉県レッドデータブック―動物編
 平成13（2001）年 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック―普及版―
 平成21（2009）年 千葉県の保護上重要な野生生物
 ―千葉県レッドデータブック―植物・菌類編 2009年改訂版
 平成23（2011）年 千葉県の保護上重要な野生生物
 ―千葉県レッドデータブック―動物編 2011年改訂版

○レッドリスト

- 平成15（2003）年 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト（植物編）
 ＜維管束植物 改訂版＞
 平成16（2004）年 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト（植物編）
 ＜2004年 改訂版＞
 平成18（2006）年 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドリスト（動物編）
 ＜2006年 改訂版＞

○レッドデータブック追録

- 平成23（2011）年 千葉県の保護上重要な野生生物―千葉県レッドデータブック―追録 第1号
 平成24（2012）年 千葉県の保護上重要な野生生物―千葉県レッドデータブック―追録 第2号



レッドデータブック
植物・菌類編
2009年改訂版



レッドリスト動物編
2006年 改訂版



追録第2号

外来生物の脅威から生態系を守る

外来種緊急特別対策事業

県内で急増し、在来の生態系や農作物へ被害をもたらす外来生物に対応するため、「外来種緊急特別対策事業」として、生物多様性センターでは緊急性の高いカミツキガメやウチダザリガニの個別対策を実施しました。また、外来植物のナルトサワギクについて生育状況の把握や防除方法について検討しました。

今後も引き続き、環境省や地元市町村と連携の上、より充実・強化した対策に取り組む必要があります。

1 外来種緊急特別対策事業

(1) カミツキガメ

本種は「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(外来生物法)により特定外来生物に指定されています。県では平成19年度に「千葉県におけるカミツキガメ防除実施計画」を策定し、国の確認を受けて、計画的に防除を実施しています。

本県では、特に印旛沼周辺において本種の自然繁殖が確認されています。平成25年度は、高崎川、南部川、鹿島川などの流入河川部及び西印旛沼・北印旛沼の沼内部において、誘因餌を用いたワナによる捕獲作業を実施しました。捕獲作業は、6月18日から8月26日に実施しました。

これらの捕獲作業の結果、高崎川で161個体、南部川で62個体、鹿島川で72個体、西印旛沼で149個体、中央排水路で4個体、甚兵衛広沼・北印旛沼で0個体、新川・神崎川で2個体の合計450個体を捕獲しました。性判定できた捕獲個体の大きさは、背甲長で雄が 229.6 ± 52.7 mm (178個体)、雌が 191.1 ± 47.4 mm (271個体)でした。

平成25年度は、上記の捕獲作業のほかに、印旛沼水系周辺の用水路での捕獲を行いました。捕獲作業は、高崎地区と臼井地区において、6月18日から10月21日の間に実施しました。その結果、用水路では、高崎地区では52個体、臼井地区では48個体の合計100個体を捕獲しました。

また、本県では市民からの通報により、地元市町村や警察が緊急的に収容した個体の殺処分等も実施しています。これらの発見情報は、県内の生

息状況を把握するための重要な情報になります。

平成25年度に緊急収容された個体は、印旛沼周辺域で78個体、その他地域で7個体、合計85個体でした。すなわち、平成25年度に本県で捕獲されたカミツキガメの総捕獲数は635個体であり、そのうち98.9%が印旛沼周辺水域からの収容個体でした。

そのほか、国や地方自治体の研究機関が外来生物問題等について情報を交換・共有する目的で、平成25年11月6日から7日に石川県で開催された第16回自然系調査研究機関調査研究・活動事例発表会及び連絡会議(NORNAC16)において、「千葉県で繁殖しているカミツキガメの防除」について事例紹介を行いました。



カミツキガメ



カミツキガメ捕獲の様子

(2) ウチダザリガニ

平成21年9月に利根川水系長門川(印旛郡栄町)において、関東で初めてとなる特定外来生物ウチダザリガニの生息が確認されたことから、生息状況調査を実施するとともに関係者からの情報収集に努めています。

平成22年度から24年度にかけてワナを用いた捕

獲作業を実施しましたが、ウチダザリガニは1個体も捕獲されなかったことから、平成25年度はワナを用いた捕獲作業は実施しませんでした。

しかし、まだ低密度で生息している可能性があります。また隠遁性が高いために生息数が少なければ発見することが難しい一方で、産卵数が多いために繁殖に成功すれば大規模に増殖することが懸念されます。

このため、県では本種の生息動向に注目するとともに、今後も地元漁業者等関係者とともに、状況把握や防除に努めていきます。

2 ナルトサワギクの防除方法の検討

ナルトサワギクもカミツキガメ等と同様、外来生物法により特定外来生物に指定されています。本種は、牛が食べると中毒を起こすことが知られています。また海浜に侵入すると、急速に広がるので防除が困難になります。本県は全国有数の酪農県であり、自然豊かな海岸線を有するため、拡散前に完全な防除をする必要があります。県内では、館山市と南房総市の内陸部など数カ所で繁茂しており、生物多様性センターでは館山市、南房総市、そして現地の市民団体である安房生物愛好会と協力して防除のための調査研究と広報を行っています。

ナルトサワギクの防除方法は確立されていないため、当面は手取り除草により分布の拡大を食い止め、合わせて適した防除方法を検討する必要があります。平成22年度には、安房生物愛好会が中心となり、館山市、南房総市で計3回、のべ約330名による大規模な手取り除草が行われ、ほとんど目立たない程度にまで防除しました。しかし、除草を終えた場所からもナルトサワギクが多量に発芽しているのが観察されたため、より効率的な方法を見つけ、継続した防除が必要だと考えられました。

そこで平成23年度には発芽そのものを抑制するため、防草シート（化学繊維で作られたマット）

を除草した箇所に敷く方法を試みました。この方法ではほぼすべての植物を防除できますが、大変な労力がいり、広範囲に行うのが困難なため、より効率の良い方法が望まれました。その後の観察の結果、シロツメクサなど他の草本がマット状に広がっている場所では、ナルトサワギクがほとんど生育していないことが明らかとなり、マット状に広がるような生長の旺盛な草の種子をナルトサワギクの発芽前にまくことにより、防除できるかどうか、専門家を交えて検討しました。

これを受け、平成24年には、館山市大井のナルトサワギク除去地において、バミューダグラスの種子を散布しました。その結果、ナルトサワギクの生育を大きく減らすことができましたが、合わせて拔取りをしないと次第に元に戻ってしまうことも確認されました。

他にもナルトサワギクの発生がみられていた茂原市内や木更津市内の学校敷地内等で手取り除草を継続して行いました。

平成25年度も、大規模な生育地こそ抑制できているものの、従前より生育が認められた地を中心に散発的に生育が確認されたことから、モニタリングと除去実施を継続しました。分布拡大防止のためにはわずかな個体でも開花・結実する前に除去することが必要です。また、新たな生育地が確認されたため、引き続き安房生物愛好会やボランティアの協力を得て監視や除去を行いました。



冬季にも生育・開花が見られるナルトサワギク

哺乳動物と人との共存をめざして

獣類の個体数推定及び被害管理技術評価のための生息密度推定法の開発

生物多様性センターでは、農作物等への被害を発生させているイノシシなどの獣類の個体数管理を実施していくために、県内における生息情報の収集や解析を行っています。平成25年度は、獣類の適切な管理のために必要な生息密度を推定するために、自動撮影カメラを用いた「カメラトラップ法」による推定方法の検討を行いました。

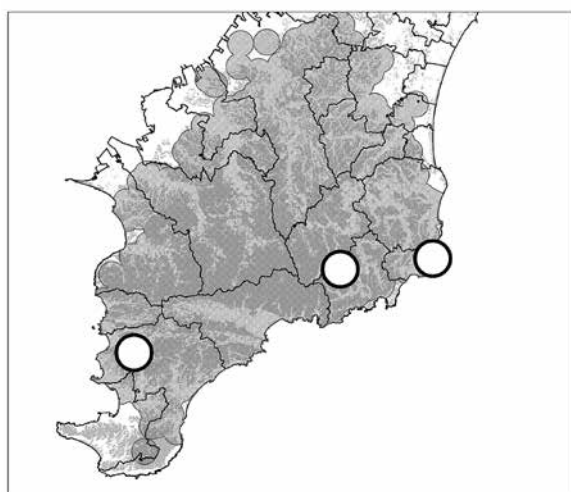


図1 調査を実施した地点（3か所）

カメラトラップ法による調査は、県内3か所（大多喜町、いすみ市、南房総市）に調査地を設定し（図1）、スギ林の尾根上にそれぞれ5台の自動撮影カメラを設置し、カメラの前を通過する種の撮影を行いました。

これらの中で大多喜町及びいすみ市の2か所で撮影された記録画像（49日分）を分析し、撮影頻度を算定しました。撮影頻度は次の式により求めました。

$$\text{撮影頻度} = (\text{各種の撮影枚数} / \text{カメラの台数} \times \text{撮影日数}) \times 100$$

また、各調査地及びカメラごとに撮影頻度の累積値の変化について検討を行い、個体数の指標となる期間（ここでは、カメラの台数に日数を掛けした値を「カメラ日」とします）の検討を行いました。

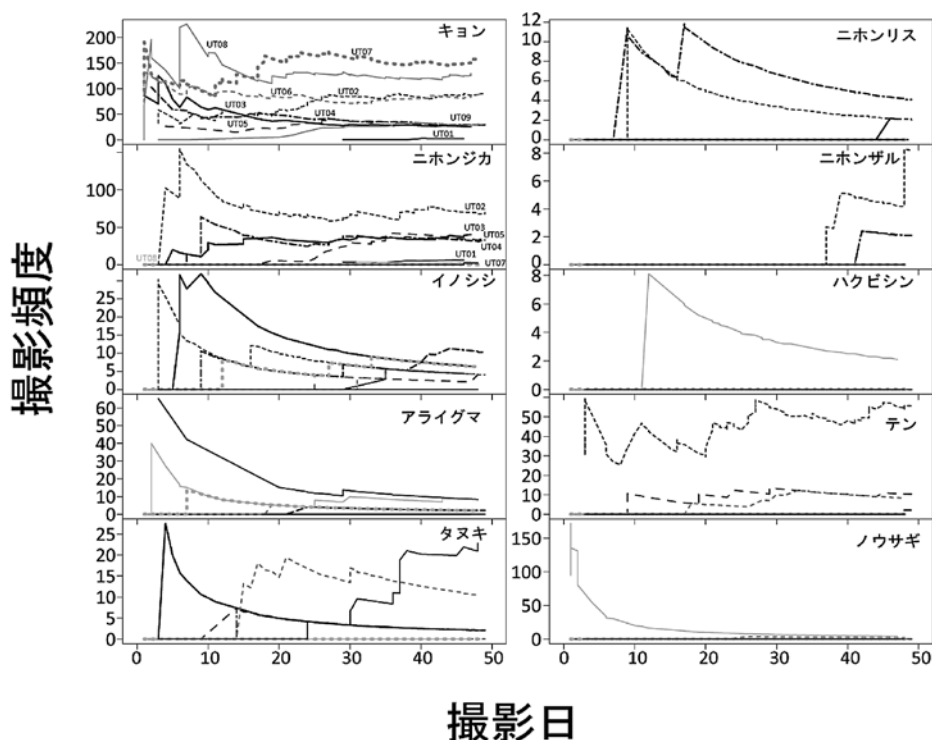


図2 カメラに撮影された種と撮影頻度

その結果、調査期間（49日）中に両地域合計409枚の画像が撮影され、10種の哺乳類を判別できました（表1）。この中で、両調査地ではキョンが最も多く撮影されていました。

また、期間中の各カメラの撮影頻度の推移から、キョン及びニホンジカの場合は、概ね20日以上で撮影頻度が安定し、テンでは30日以上で安定しました（図2）。一方、イノシシの場合は調査期間内の撮影頻度は安定せず、また他の種では撮影枚数が少なく、検討ができませんでした。

さらに、撮影枚数の多いキョン、ニホンジカ、イノシシのカメラ日ごとの地域別撮影頻度の合計値から、キョンでは100カメラ日、ニホンジカ及びイノシシでは150カメラ日で撮影頻度が安定することが分かりました（図3、図4）。しかしながら、撮影期間中に頻度に変化する形式も認められることから、新たに移入した個体がいた可能性もあるため、今後の検討していくべき課題です。

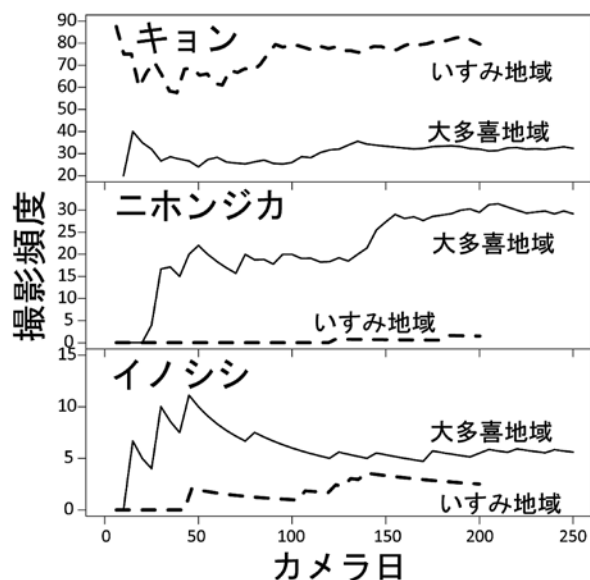


図3 カメラ日と撮影頻度の関係。撮影枚数の多かったキョン、ニホンジカ、イノシシを抜粋した。

表1 大多喜町及びいすみ市の調査地における各種の合計撮影枚数。

	カメラ 台数	キョン	ニホン ジカ	イノシシ	テン	タヌキ	アライグマ	ノウサギ	ニホン リス	ニホン サル	ハクビシン
大多喜町	5 台	81	73	14	31	3	1	0	4	6	0
いすみ市	4 台	159	3	5	4	12	9	3	0	0	1



図4 自動撮影カメラで撮影された画像の例（左：イノシシ、中：ニホンジカ、右：キョン）

生物多様性情報の収集・管理・提供

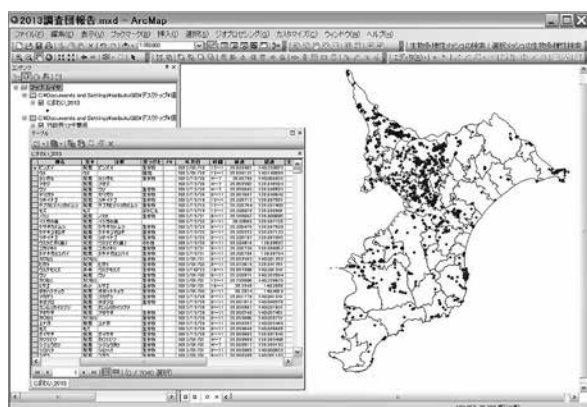
生物多様性地理情報システムの管理運用

1 事業の概要

生物多様性の保全・再生及び持続的な利用の推進に当たっては、生物多様性に関する基礎情報としての生物分布情報の整備は欠かせません。しかし、このような基礎情報は、論文や報告書などの紙媒体で記録されているものが多く、情報の検索には大変な手間がかかります。また、県内の各事業によって作成されたデータベースもいくつか存在しますが、そのデータは各部署で個別に管理されており、情報入手には様々な手続きが必要です。このような状況を解決するため、県内の生物多様性に関する情報を収集・電子化し、それらを地理情報と共にデータベースとして一元管理するという「千葉県生物多様性地理情報システム」を構築しました。

2 システムの目的

本システムは、県内の生物多様性に関する情報を統合的に管理することを目的としています。本システムを活用することにより、県内各地の生物多様性の状況と、現在の土地利用や開発計画、保護指定などの状況を関連させ、今後の施策等を判断するための情報を提供することができるようになります。



生命のにぎわい調査団 平成25年度の報告地点

3 システム構築の概要

千葉県生物多様性地理情報システムは、平成

18年度に基本設計を終え、生物分布情報を基本的には3次メッシュ（1:25,000地形図を100等分した範囲、約1km²）をベースとして管理することに決定しました。

平成19年度には、基本設計に基づいてシステムの構築を行いました。また、県立中央博物館の標本データ、自然保護課発行の報告書、環境影響評価書のデータを整備（電子化）し、地理情報（GIS）データベース化しました。平成20、21年度には、文献情報や入手した植物と両生爬虫類等のデータ整備をさらに進め、21年度には生物多様性センターウェブページにて主な特定外来生物の分布状況を公開しました。平成22年度には、それまでに蓄積してきたデータを用いて、同年度発行の「千葉県の保護上重要な野生生物—千葉県レッドデータブック—動物編」の分布図を作製しました。さらに、メッシュ番号を入力すると、そのメッシュで生息が報告されている生物種のリストが出力され、また逆に種名を入力すると、その種の生息が報告されているメッシュ番号が出力されるシステムを作成しました。平成23年度には、全てのデータベースからメッシュごとのレッドデータ種数を抽出する機能を追加しました。平成24年度には、使用していた旧測地系3次メッシュデータを、新測地系3次メッシュに変換するシステムを作成しました。

4 システムの構成

平成25年度には、生物多様性地理情報システムのハードウェアを更新しました。

GISサーバ（1台）

- ・GISソフトウェア：ARC Desktop 10.1 for Desktop
- ・ハードウェア：富士通FMVD0702SP
- ・CPU：Intel Core™i5プロセッサ
- ・OS：Windows 7 Professional

5 データベースの内容

データベースは、県立中央博物館の生物標本データ、自然保護課発行の報告書、各種論文、環境影響評価書等より抽出された約128万件の生物分布情報等で構成されています。

各情報の構成は以下のとおりです。

(1) 中央博物館所蔵標本データ

- ・動物（5分類群）、植物・菌類（8分類群）
約300,000件

(2) 文献データ

中央博物館所蔵の報告書、雑誌等及び環境影響評価書からの生物分布情報

約150,000件

(3) 生命のにぎわい調査団による分布情報

約21,200件

(4) その他の分布情報

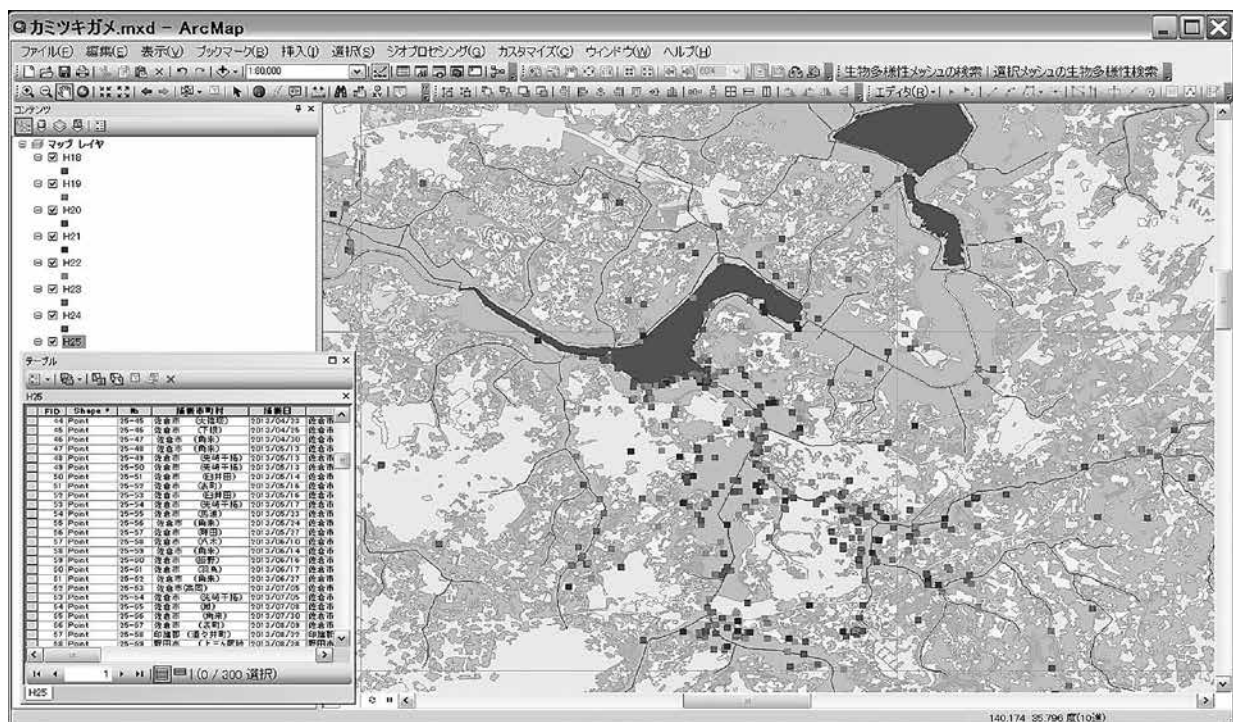
- ・大場達之氏収集県内植物のデータ
- ・長谷川雅美氏収集両生爬虫類のデータ他
約750,000件

(5) 地理情報データ等

- ・数値地図2500及び25000（空間データ基盤）
- ・数値地図25000（地図画像）
- ・町丁目ポリゴンデータ
- ・衛星写真
- ・千葉県植生図

6 システムの活用

本システムを用いて、さまざまな生物情報の分布図作成や解析が行われています。例として、生命のにぎわい調査団の報告集計や、カミツキガメ対策等に活かされています。また、開発計画がある地域で希少種の出現記録確認等、生物分布情報の照会にも随時対応しています。



カミツキガメ緊急収容記録（平成18~25年度）の解析

県民参加型の生物モニタリング調査

生命（いのち）のにぎわい調査団事業

1 事業の概要

生物多様性センターでは、「生物多様性ちば県戦略」の普及啓発と推進にあたり、多様な主体により生物多様性の状況をモニタリングする取組が重要なことから、広く県民に呼びかけて、生態系の指標となる生物や外来生物を含めた「身近な生きもの」の情報提供を受ける事業を行っています。

2 目的

「生命（いのち）のにぎわい調査団」は、生物の発見情報を団員から報告してもらい、生息状況や季節報告（飛来、初鳴き、産卵、植物の開花等）を把握することにより、里山等の身近な生物の分布や経年変化、外来生物の分布拡大、地球温暖化による生物への影響など生物多様性の変化を把握するための調査モニター制度として、平成20年7月に発足しました。

3 調査団員の状況

県内全域の多くの人に参加してもらえるように、県民だよりや県内の環境フェア等でも広く調査団員の募集を行い、団員数は901名（平成26年3月末現在）です。

団員の年齢別構成の特徴は、50歳代以上が全体の約6割を占め、時間にゆとりのできた世代が自然環境保全や生物の観察に関心が高いことが分かりました。また、18歳未満は約1割、その親世代にあたる30歳代と40歳代が約2割であり、生命のにぎわい調査を次の世代へつなぐための重要な役割を担っています。

4 調査の対象生物

里山、海辺など千葉県の多様な環境で見られる生物のうち、種類の区別が付きやすく、身近に生息・生育している動植物57種を選定し、調査対象生物としています。生息・生育を確認した生物の情報は、報告用紙の郵送・FAX送付、又は当調

査団ウェブサイトの報告フォームによる送信で提供を受けています。

調査対象生物以外の発見報告も受けており、これまでの報告の中には鳥類では、里山の生態系を象徴するサシバや希少種のオオタカ、サンカノゴイ、タマシギ等があります。

5 平成25年度の取組

(1) 生物報告の件数

生物報告の件数は、平成25年度は約9,200件で、調査団発足から平成25年度末までの5年8ヶ月間の累計件数は30,400件となりました。

（２）生物報告の分析と情報発信

生物報告の分析結果は「生きもの分布図（発見マップ）」、開花、紅葉、初鳴き、産卵などの「生きもの季節マップ」などとして取りまとめており、調査フォーラムにおいて「調査団の活動と報告から生物多様性の見える化へ」と題して、概要を報告しました。



生命（いのち）のにぎわい通信

情報発信のために「生命（いのち）のにぎわい調査団」のウェブサイトを開設し、毎月の生物報告や生きもの分布図、調査対象生物の生態や見分け方、生物多様性に関わる企画等の情報提供を随時行っています。<http://www.bdcchiba.jp/monitor/>

また、25年度は「生命（いのち）のにぎわい通信」を26号から29号まで年4回発行し、生物報告の分析結果と生物多様性の保全に向けた取組の紹介、県内に生息・生育している希少生物や外来生物等の情報も提供しました。

この通信は、調査団員に配布するほか、生物多様性に関連するシンポジウム等の参加者へも配布しました。

（３）調査団の研修会等

調査団員の観察技術の向上、すなわち本県の自然や調査対象生物の見つけ方・見分け方など生物報告の情報の正確性向上のために、現地研修会を実施しました。また、これまでの調査結果の検討などを行う「生命のにぎわい調査フォーラム」を開催しました。

① 現地研修会

○平成25年7月6日（土） 夷隅川河口干潟（いすみ市）

「夷隅川河口のラグーン干潟と海岸」参加者25名
午前中は河口のラグーン干潟で甲殻類や魚類、貝類の観察、午後は海岸植生と河口のコアジサシの営巣地やアカウミガメ産卵地を見学しました。

○平成25年12月7日（土） 手賀沼親水広場・水の館（我孫子市）

「手賀沼の自然と生きもの」参加者30名
午前中は水の館の展示を解説を受けながら見学しました。絶滅が危惧される水生植物の保全再生水槽を見学した後、観察会用のカゴワナを回収して魚類やエビなどを観察しました。午後は遊歩道を歩き、水鳥や昆虫、クモ、植物などを観察しました。

② 生命のにぎわい調査フォーラム

平成26年3月15日（土）県立中央博物館講堂
参加者80名

- ・講演「生物多様性を知る～イノシシの影響について」
- ・報告「調査団の活動と報告から生物多様性の見える化へ」
- ・3名の団員からの「観察事例の紹介」等
- ・写真コンテスト

応募33作品からフォーラム参加者の投票審査により、上位2点を表彰しました。



調査フォーラム（表彰）での発表



現地研修会（夷隅川河口）



現地研修会（手賀沼）

里山里海の生物多様性保全に関わる事業への参加と協力

ちばの里山里海サブグローバル生態系評価

生物多様性センターが参加し協力支援した里山里海の生物多様性保全等について示します。

○里山里海の保全再生のシンクタンク機能

- ・我孫子市の「我孫子市谷津ミュージアム事業構想-第2次改訂版」においては、これまでの10年間の事業実績をふまえ、谷津里山タイプの里山のさらなる保全再生の対策が策定され現場展開が開始されました。
- ・四街道市の「栗山みどりの保全事業」では、谷津田を含む5.4haの里山を地権者から借用し市民と協働してその保全・再生また利活用する事業がスタートし、2014年1月から一部供用開始されました。
- ・市川市の「生物多様性いちかわ戦略」が2014年3月に完成し、人と自然が調和して暮らす生物多様性豊かな里山里海をふまえた、生物多様性の保全再生及び持続可能な利用に向けた対策が策定されました。

○第10回里山シンポジウムへの参画

2004年度から本県が主催又は共催して県民とともに実施してきた里山シンポジウムが第10回を迎え、その記念のシンポジウムが5月18日に千葉経済大学において「里山、これまでの10年、これからの10年」をテーマに開催されました。

その全体会で生物多様性センターの活動を報告し、またプレシンポ「里山と4つの生態系サービス」では、「文化サービス」をコーディネートし、その報告のためのパネルディスカッションに参加しました。



第10回里山シンポジウムの開催チラシ

○里山里海の調査研究の報告書作成

千葉県と大学の生物多様性連携における「都市-里山里海の生物多様性保全」の調査研究の成果を、千葉県生物多様性センター研究報告第7号に取りまとめました。それにより、新種のイスミスズカケをはじめ房総地域の生物相の新知見が蓄積されるとともに里山里海環境と生物多様性、都市化による生物多様性への影響、さらに生物多様性の保全再生の課題と方向性等が明らかになりました。

【植物・菌類関係】

絶滅危惧種イスミスズカケの概要と保全（上原・斎木）、千葉県柏市における植物群落の管理履歴と希少植物の保全に関する研究（瀧下ほか）、千葉県柏市こんぶくろ池周辺における森林の履歴と現在の林分構造（稲岡・福田）、千葉県柏市こんぶくろ池周辺における希少草本類の生育環境特性と保全に関する研究（白川ほか）、都市近郊林のナラ類葉内生菌群集の空間変動パターン（松村・福田）、常緑広葉樹林の菌類子実体の多様性と都市化の影響（落丸・福田）

【動物関係】

地球温暖化と南日本各地における魚類相の比較（須之部ほか）、流山市における都市化による鳥類相の変化（斉藤ほか）、冬期の印旛沼流域における猛禽類の環境選好性と生息環境評価（橋本・長谷川）、関東地方のさまざまな植生条件における地表徘徊性甲虫群集（神保ほか）

【生態系・保全対策関係】

生物多様性保全を目的とした衛星データによる千葉県の自然環境解析に関する研究（原ほか）、都市-里山里海の生物多様性保全：その新たな知見と課題（中村）

ウェブサイトによる情報発信

生物多様性保全に係る普及啓発事業

○概要

生物多様性センターウェブサイトは、多くの方に生物多様性センターの取組を伝えることを目的に、平成20年5月に公開しました。

記事の追加・更新・修正などを月に2～3回のペースで行い、情報発信をしています。アクセス数は、月3万件以上あり、特にレッドデータブックや研究報告など、出版物をダウンロードするページが多く閲覧されています。

貸し出します

千葉県内で生物多様性に関するパネルを展示していただく団体（企業・市町村・NPOなど）を募集しています。パネルの大きさは、B1（1030mm×728mm）を基本としておりますが、種類によっては別サイズもあります。掲載のパネル以外にも、制作しているパネルがありますので、お問い合わせください。

お申し込み、お問い合わせは、千葉県生物多様性センター（4）まで

Tel：043-265-3601 Fax：043-225-1630

E-mail：bdc@mx.pref.chiba.jp（※は半角に直して送信をお願いします）

展示のパネル



「貸し出し展示パネルの紹介」のページ

トップページの各項目の主な内容

項 目	内 容
センターの概要	生物多様性センターの発足経緯、5つの機能、問い合わせ先等について記述
生物多様性ちば県戦略	自然保護課の生物多様性ちば県戦略のページへのリンク
絶滅危惧種の保護	絶滅危惧種の回復計画、レッドデータブックについての紹介
外来種対策	外来種問題への取組について紹介
ビオトープの推進	ビオトープ推進マニュアル、学校ビオトープの取組について紹介
生物多様性モデル事業	生物多様性モデル事業についての説明・紹介のページ
多様な主体との連携・協働	県と連携協定を結んでいる県内6大学やNPO、企業などとの連携・協働について紹介
生物多様性GIS	生物多様性地理情報システムの内容、主な特定外来生物の分布図を紹介
生物多様性モニタリング	県で実施している生物多様性モニタリング事業についての紹介
にぎわい調査団	「生命（いのち）のにぎわい調査団」に関するページ
千葉県の生物多様性	千葉県の生物多様性に関するトピック的な話題を分かりやすく紹介
刊行物	「生物多様性ちばニュースレター」、「学校ビオトープ事例集」、「研究報告」、「生物多様性ハンドブック」等の生物多様性センターで発行した刊行物の紹介
生物多様性用語集	生物多様性に関する用語を解説
生物多様性写真館	県内の生物多様性ホットスポットや生き物図鑑、外来種などを写真で紹介
展示・講座・イベント	生物多様性についての巡回展示、講座、イベントについて紹介
リンク	県内外の生物多様性に関する機関のウェブページへのリンク集
生物多様性ちば企業ネットワーク	企業による生物多様性の保全及び持続可能な利用取組の支援

URL：http://www.bdcchiba.jp/

生物多様性ちばニュースレターの発行

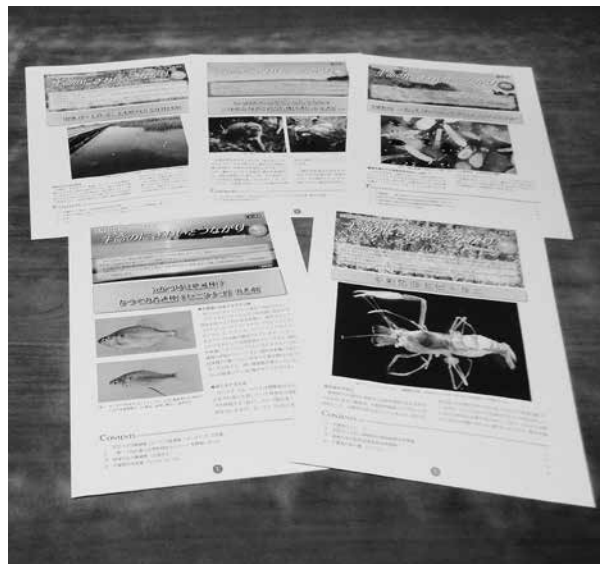
生物多様性保全に係る普及啓発事業

1 事業の概要

生物多様性センターでは、生物多様性についての理解の促進や、生物多様性ちば県戦略の普及啓発、生物多様性センターの取組に関する情報発信などを行うため、ニュースレター「生命(いのち)のにぎわいとつながり」を1年間に5回発行しています。

紙面は、A3版両面印刷二つ折りの4ページ構成で、巻頭の生物多様性に関する特集や、生物多様性の保全に向けた取組の紹介、千葉県に生育・生息している希少種や外来種の紹介、生物多様性センターからのお知らせなどを掲載しています。

印刷部数は各6,000部で、千葉県内の図書館や市町村に配布したほか、生物多様性に関連する各種イベントにおいても配布しました。



ニュースレター

2 平成25年度の発行実績

発行日等	主 な 内 容
NO.33 (5月31日)	・特集「印旛沼・手賀沼、沈水植物の多様性回復」 ・平成24年度「生命(いのち)のにぎわい調査フォーラム」を開催しました！
NO.34 (7月31日)	・特集「いっぱいいるのに、なぜ守るの？ ～サルとカメに迫る危機「遺伝子浸透」～」 ・生物多様性の巡回展を開催しました！
NO.35 (10月31日)	・特集「土壌動物 ―落葉の下にひっそりと住む生きものたち―」 ・生命(いのち)のにぎわい調査団で現地研修会を開催しました ・生物多様性に関する市町村職員研修会を開催しました
NO.36 (1月31日)	・特集「気がつけば絶滅種？かつての普通種「ゼニタナゴ」の悲劇」 ・第11回企業と生物多様性セミナーを開催しました ・地域文化と動植物(⑤落花生)
NO.37 (3月31日)	・特集「千葉県のエビ・カニ」 ・生命(いのち)のにぎわい調査団で現地研修会を開催 ・連携大学の研究成果発表会を開催

イベントによる情報発信

生物多様性に関する普及啓発事業

1 事業の概要

千葉県生物多様性センターでは、「生物多様性」をより社会に浸透させることを目的に、県内の市町村や企業と協働して、生物多様性に関する巡回展示や巡回講座などの普及啓発活動を行いました。

2 巡回展示

「第16回ふなばし環境フェア」(6月8日)、「第2回袖ヶ浦市環境フェスタ」(6月9日)、「エコメッセ2013 in ちば」(9月28日)など、市町村等が開催する15の環境関連イベントに出展し、生物多様性に関連する普及啓発活動を行いました(展示一覧は30頁参照)。展示ブースでは、展示したパネルの理解を深めるために「生命(いのち)のにぎわいクイズ」を用意しました。千葉県の在来生物を題材にした「千葉県の生きもの」シリーズあるいは、特定外来生物を題材にした「特定外来生物」シリーズの缶バッジ(図)を制作し、参加記念品としました。



「長南フェスティバル」(H25.11.3)に出展の様子。パネル4枚を展示しました。



「エコメッセ2013」(H25.9.28)での展示



「千葉県のいきもの」シリーズと「特定外来生物」シリーズの缶バッジの例



「いんざい環境フェスタ」(H25.6.2)に出展の様子

3 巡回講座

外来種や希少種など、生物多様性をテーマに、様々な機会に講演を行いました(講座一覧は28頁参照)。

ビオトープの推進

地域と連携したビオトープの支援展開

1 「学校ビオトープの推進」から「地域と連携したビオトープの支援展開」へ

学校ビオトープは、児童・生徒が身近な自然とふれあいながら地域の生物について学ぶことができる場です。また、ビオトープは地域の多様な生物の生育地・生息地になるなど、地域の自然環境にとっても大変重要なものです。

生物多様性センターでは、平成20年度から平成22年度にかけて、学校と地域が連携した学校ビオトープの整備を支援するため、生物多様性体験学習推進事業として、小学校延べ30校と高等学校延べ8校のビオトープの整備費等に対し補助を行ってきました。

平成20年度から平成24年度には、この推進事業を実施した学校の児童・生徒や教職員を中心として、学校ビオトープの整備・活用方法や課題を情報交換し、水辺や植生の管理、観察の方法などについて学ぶ「学校ビオトープフォーラム」を、各年度1回ずつ開催しました。

このように平成20年度から行われていた学校ビオトープの推進事業は平成24年度で終了しましたが、平成25年度からは、地域と連携したビオトープの支援展開事業を行うことになりました。

2 ビオトープ実地講座の開催

「学校ビオトープフォーラム」に替わるビオトープ支援事業として、平成25年度は「ビオトープ実地講座」を開催することにしました。これは県内の企業・市民団体・学校等でビオトープの整備や維持管理に携わる方々を対象とし、ビオトープを立ち上げた後に（よく）生じる問題点に関する対処法や、円滑に管理する方法についての講演を行うとともに、実際に長年維持管理されているビオトープを担当者の解説を交えて見学するものです。

以下のような計画を立てて参加者を募集したと

ころ、冬の平日にも関わらず、33名もの申込みがありました。

日時：平成26年2月14日（金）13:00～16:00

場所：市立市川自然博物館及び市川市動植物園自然観察園

主催：千葉県環境生活部自然保護課

プログラム：

1. 講演「ビオトープ維持管理上の問題と解決方法」

公益財団法人日本生態系協会教育研究センター長

田邊龍太氏

2. 市川市動植物園自然観察園の見学

市立市川自然博物館学芸員

金子謙一氏

しかしながら、この実地講座は当日が大雪であったために中止となりました。次年度に同一内容で、開催することを検討しています。



市川市動植物園自然観察園



市立市川自然博物館

生物多様性サテライトの設置

生物多様性サテライト設置事業

1 事業の概要

生物多様性センターでは、生物多様性の普及啓発を目的として平成23年度から、県内各地に展示スペース「生物多様性サテライト」の設置を行っています。

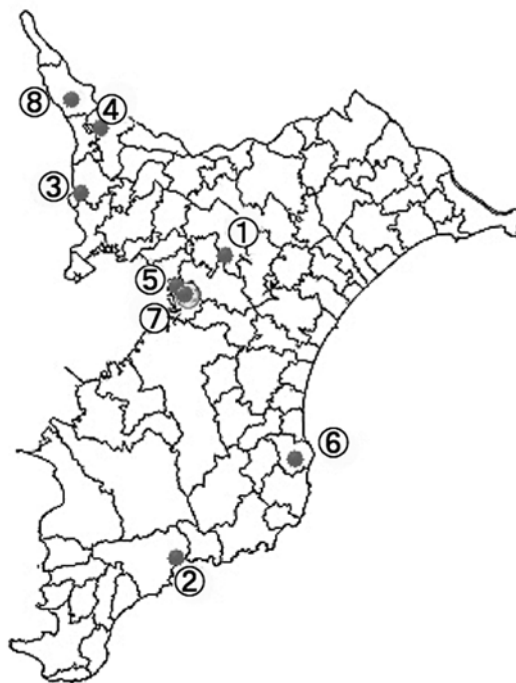
2 平成25年度の状況

3年目となる平成25年度は、新たに2カ所のサテライトをNTT東日本千葉支店の光HOUSE千葉及びキッコーマン(株)(もの知りしょうゆ館)に設置していただき、下記のとおり計8カ所となりました。

- ①DIC川村記念美術館(佐倉市)
- ②鴨川シーワールド(鴨川市)
- ③千葉大学(園芸学部)(松戸市)
- ④東京大学(柏キャンパス)(柏市)
- ⑤東京情報大学(千葉ステーションキャンパス)(千葉市)
- ⑥千葉県いすみ環境と文化のさとセンター(いすみ市)
- ⑦NTT東日本千葉支店の光HOUSE千葉(千葉市)
- ⑧キッコーマン(株)(もの知りしょうゆ館)(野田市)

生物多様性の重要性についてのパネルを展示するとともに、ニュースレター「生命のにぎわいとつながり」や「生命のにぎわい調査団」入団申込書など生物多様性センターの活動にかかわる資料をサテライトにて配布しました。

今後とも生物多様性サテライトの設置を進めていき、さらなる生物多様性の普及・啓発の拠点づくりを目指します。



⑦NTT東日本千葉支店の光HOUSE(千葉市)



⑧キッコーマン(株)もの知りしょうゆ館(野田市)

大学との連携

生物多様性大学連携事業

1 連携協定の締結

平成20年12月24日に、県と江戸川大学、千葉大学大学院園芸学研究科、東京大学大学院新領域創成科学研究科、東京海洋大学、東京情報大学、東邦大学の6大学との間で「生物多様性に関する千葉県と大学との連携に関する協定書」を締結しました。

これらの大学は、いずれも県内にキャンパスや研究施設があり、県戦略の策定をはじめ、千葉県の生物多様性に関する研究などで連携を進めてきました。

この連携は、

- ①情報の共有
- ②モニタリングの実施
- ③共同研究
- ④人的交流・人材育成

の4つの項目から、以下のような取組を実施しました。

2 委託研究

平成25年度は千葉大学と東京情報大学に生物多様性保全のための調査研究を委託しました。

3 研究成果発表会の開催

6大学が各大学の特色を活かしてそれぞれの地域で行っている、生物多様性に関する取組などを地域の方々と共に発表する「千葉県と連携大学との研究成果発表会—大学の地域連携と生物多様性～いきいきとした持続可能な地域づくりをめざして～」を、平成25年11月30日に東京情報大学にて開催しました。6大学の発表のほかに、千葉市及び千葉県生物多様性センターから、行政の立場から生物多様性保全の取組を紹介しました。そして、それらを基に生物多様性の保全や活用に関する課題や今後の方向性について議論しました。

【発表者とタイトル（発表順）】

吉永明弘・土屋 薫（江戸川大学）

「流山市の市民活動と江戸川大学の取り組み」

上原浩一（千葉大学）

「絶滅危惧種イスミスズカケの概要と保全」

福田健二（東京大学）・森 拓人（柏自然ウォッチャーズ）「柏市の緑地と希少種保全のための取り組み」

河野 博（東京海洋大学）

「江戸前の海を持続的に活用するための仕組みづくり～大学にできること」

原 慶太郎（東京情報大学）・美濃和信孝（畔田谷津ワークショップ）

「東京情報大学の生物多様性に関する地域連携の取り組み」

森田考恵（しろい環境塾）

「大学の研究活動を応援してNPOと市民が得たもの—河川改修のさなかでのカメの観察、救出、その後—」

富塚秀典（千葉市環境保全課自然対策室）

「千葉市の谷津田保全と地域連携」

萩野康則（千葉県生物多様性センター）

「大学の地域連携と行政の取り組み～千葉県生物多様性センターを例として」

4 人的交流・人材育成

東京大学大学院1名のインターンシップ実習生を受け入れました。

5 連絡会議

平成25年7月25日及び平成26年2月20日に、県と各大学の関係者による連絡会議を開催し、連携内容について意見交換が行われました。

6 研究報告

これまでの生物多様性にかかわる研究成果（原著論文4件、調査報告2件、研究概要6件）を「千葉県と大学の生物多様性連携学術報告第1巻：都市—里山里海の生物多様性保全」として千葉県生物多様性センター研究報告第7号に掲載しました。

企業との連携

生物多様性に関する企業との連携推進事業

すべての企業は、直接的又は間接的に生物多様性を利用し、企業活動を行っています。そのため、生物多様性の急速な損失は、企業の存続に関わる問題でもあります。同時に、企業活動は、生物多様性に多大な影響を与えており、生物多様性の危機的な状況を改善するためには、企業の事業活動においても多様な主体との連携・協働のもと、生物多様性を保全するための取組が必要です。そこで、千葉県では、企業の取組を支援する活動を行っています。

1 生物多様性ちば企業ネットワーク

企業における生物多様性に対する理解の促進や生物多様性の保全に向けた取組を広げていくこと、またその支援を図ることを目的として、平成25年4月1日、「生物多様性ちば企業ネットワーク」を創設しました。

県では、支援メンバーからの協力を受けながら企業メンバーの取組の状況に応じ、生物多様性に関する各種の情報提供、社内研修会への講師派遣、参加企業を対象とした勉強会の開催等をおこなっています。

<企業メンバー>

旭硝子(株)千葉工場、(株)安藤・間 技術本部、イオン(株)、出光興産(株)千葉製油所・千葉工場、キッコーマン(株)、(株)グランビスタ ホテル&リゾート 鴨川シーワールド、(株)グリーン・ワイズ、清水建設(株)千葉支店、セイコーインスツル(株)、(株)千葉銀行、NTT東日本(株)千葉支店、(株)フジクラ佐倉事業所、リンテック(株)

<支援メンバー>

一般社団法人CEPAジャパン、NPO法人ちば里山センター、公益財団法人日本自然保護協会、公益社団法人日本生態系協会、東京都市大学 環境学部 田中章研究室

2 企業と生物多様性セミナー

県では、(一社)千葉県環境保全協議会と(一社)千葉県経済協議会との共催により企業の皆様に、千葉県内の生物多様性に関する情報や先進的な企業による取組事例などの情報共有を行うための「企業と生物多様性セミナー」を、平成21年度から開催しています。

平成25年度は下記のとおり開催しました。(通算12回)

	日時・場所	セ ミ ナ ー 内 容
第11回	25年9月12日 東京情報大学千葉 ステーションキャンパス	テーマ：工場敷地を活用した生物多様性の保全 ・講演：「工場を中心とした生態系ネットワークの構築と希少な動植物の生息域外保全」 (株)東芝 環境推進部企画担当 藤枝一也 氏 ・千葉県からの情報：「千葉県レッドデータブックについて」
第12回	26年2月18日 東京情報大学千葉 ステーションキャンパス	テーマ：事業活動と生物多様性保全との関わり ・講演：「味の素グループの生物多様性への取組み～いのちのために働く～」 味の素(株) 環境・安全部兼CSR部専任部長 杉本信幸 氏 ・千葉県からの情報：「生命のにぎわい調査団の調査から、生きもののネットワークを考える。」 ・事例報告： 清水建設(株) 環境・技術ソリューション本部 (株)グリーン・ワイズ 取締役 鴨川シーワールド 開発展示課

Ⅲ

平成25年度他機関への 支援活動・研究業績等のまとめ

他機関への支援活動・研究業績等

○職員

平成25年4月～平成26年3月における常勤職員（9名）。(併)は中央博物館との併任を示す。

副技監 中村俊彦（併）

主 幹 熊谷宏尚

副主幹 柴田るり子

副主幹 原田 浩（併）

副主幹 萩野康則（併）

副主幹 浅田正彦（併）

主 査 高山順子（併）

主 査 鈴木芳博

技 師 鈴木規慈

○他機関への支援活動

・講演・講座講師・観察会講師等（52件）

2013.5.9 NPO法人千葉自然学校「千葉シニア自然大学：千葉の自然概論」(千葉県立中央博物館) 講師. 中村俊彦. 45名

2013.5.10 稲毛中学区青少年相談員連絡協議会「環境教育講演会：子どもを育む生物多様性教育」(稲毛公民館) 講師. 中村俊彦. 30名

2013.5.16 NPO法人千葉自然学校「千葉シニア自然大学：自然関係法制度概論」(千葉県立中央博物館) 講演. 熊谷宏尚. 40名

2013.5.16 NPO法人千葉自然学校「千葉シニア自然大学：生物多様性と生態系概論」(千葉県立中央博物館) 講座講師. 高山順子. 50名

2013.5.18 里山シンポジウム実行委員会「第10回里山シンポジウム・プレシンポジウムと4つの「生態系サービス」④文化サービス」(千葉経済大学) コーディネーター. 中村俊彦. 35名

2013.5.18 里山シンポジウム実行委員会「第10回里山シンポジウム・パネルディスカッション「里山に託す私たちの未来」(千葉経済大学) パネリスト. 中村俊彦. 200名

2013.5.18 里山シンポジウム実行委員会「千葉県における生物多様性の問題」(千葉経済大学) 講演. 熊谷宏尚. 200名

2013.5.31 環境自治体会議ひおき会議・日置市「第21回環境自治体会議ひおき会議第5分科会生物多様性：未来へつなごう自然との共生」(日置市吹上砂丘荘) コーディネーター. 中村俊彦. 70名

2013.6.1 環境自治体会議ひおき会議・日置市「第21回

環境自治体会議ひおき会議・パネルディスカッション：地域資源の活かし方・つなぎ方」(日置市伊集院文化会館) パネリスト. 中村俊彦. 300名

2013.6.6 千葉県飼料品質改善研究会「千葉県における外来生物の状況と対策について」(プラザ菜の花会議室) 研修会講師. 高山順子. 15名

2013.6.14 大多喜町立西小学校「シャープゲンゴロウモドキと千葉県の希少生物」(大多喜町立西小学校) 学習会. 鈴木規慈. 40名

2013.6.17 大多喜町立西小学校「大多喜町立西小学校自然観察会」(大多喜町内) 観察会. 鈴木規慈. 40名

2013.6.18 千葉県立中央博物館友の会「中央博物館友の会生きもの教室：不死身のムシ・クマムシを見る」(千葉県立中央博物館) 講師. 萩野康則. 27名

2013.6.21 セイコーインスツル㈱「千葉県の生物多様性とその保全について」(セイコーインスツル㈱) 講演. 熊谷宏尚. 42名

2013.7.3 リンテック株式会社「生物多様性学習会「私たちの暮らしと生物多様性」(リンテック株式会社本社) 講師. 中村俊彦. 93名

2013.7.10 北総里山クラブ「メダカの地域個体群の保全に向けて地域で取り組むべき課題」(印西市立中央駅前地域交流館市民活動支援センター) 講演. 鈴木規慈. 10名

2013.7.20 千葉県酪農のさと管理センター「牧の生態系と生物多様性保全」(千葉県酪農のさと) 講座講師. 浅田正彦. 50名

2013.8.21 千葉県総合教育センター「生物多様性とは」(千葉県総合教育センター) 講座講師. 浅田正彦. 29名

2013.8.21 千葉県生物多様性センター・千葉県総合教育センター「平成25年度授業に役立つ生物多様性研修」(千葉県総合教育センター) 講師等. 萩野康則・浅田正彦・鈴木規慈. 25名

2013.8.22 JICA「カミツキガメ外来生物防除の計画と管理」(中央博物館) 講座講師. 高山順子. 18名

2013.9.20 夷隅農業事務所「中型害獣の特徴及びその生態について」(千葉県立中央博物館) 講座講師. 浅田正彦. 25名

2013.10.5 NPO法人大山千枚田保存会「嶺岡地域の生物多様性」(鴨川市旧大山小学校) 講座講師. 浅田正彦. 30名

2013.10.15 銚子野菜連合会「イノシシの生態とイノシシの発生初期の対策について」(JAちばみどり営農セン

- ター銚子) 講座講師. 浅田正彦. 20名
- 2013.10.19 君津市八重原公民館「八重原地区第17回ふれあい文化祭特別企画イベント「里山保全と生活文化：生物多様性と生態系サービスの視点から」(八重原公民館) 講師. 中村俊彦. 30名
- 2013.10.20 大多喜町部田区保全組合「野生鳥獣害について」(大多喜町部田青年館) 講座講師. 浅田正彦. 20名
- 2013.11.6 野田市教育研究会理科部会(中学校)「第2回研究会学習指導要領をふまえた実験技術の研修と学習指導法の研究：土壌動物～基礎知識と簡単な名前調べ～」(野田市立第二中学校) 講師. 萩野康則. 25名
- 2013.11.17 穴塚の自然と歴史の会「第23回里山保全学習会：生物多様性戦略とその実行体制」(土浦市四中地区公民館) 講師. 中村俊彦. 30名
- 2013.11.17 環境シンポジウム千葉会議実行委員会「生物多様性を守るために、千葉県が県民・大学・企業と共にやっている取組について」(船橋市東部公民館) 講師. 柴田るり子. 60名
- 2013.11.25 リンテック株式会社「生物多様性って何だろう？」(リンテック株式会社千葉工場) 講座講師. 高山順子. 20名
- 2013.12.1 手賀沼水生生物研究会「千葉県の淡水魚保全を考える～琵琶湖博物館うおの会を例として～」(我孫子市生涯学習センター アビスタ) 講演. 鈴木規慈. 40名
- 2013.12.6 安房農業事務所「鳥獣害対策について」(白浜フローラルホール) 講座講師. 浅田正彦. 100名
- 2013.12.6 大多喜町立西小学校「千葉県における生物多様性の保全～西小学校の皆さんと一緒にできること」(大多喜町立西小学校) 講演. 鈴木規慈. 50名
- 2013.12.7 日本山岳会千葉支部「富士山と房総の自然を語る集い：富士山の浮世絵から探る房総の景相」(千葉県立中央博物館) 講師. 中村俊彦. 80名
- 2013.12.14 フィールドミュージアム・三番瀬の会「フィールドミュージアム振り返りシンポジウム：千葉県立中央博物館のフィールドミュージアム展開」(千葉県立中央博物館) 講師. 中村俊彦. 60名
- 2013.12.20 夷隅農業事務所「鳥獣害対策の現状と課題」(夷隅合同庁舎) 講座講師. 浅田正彦. 50名
- 2014.1.9 環境省「特定鳥獣の保護管理に係る研修会」(日本青年館ホテル) 講座講師. 浅田正彦. 30名
- 2014.1.22 一般社団法人千葉県環境保全協議会「環境問題(平成25年度環境白書)説明会」鈴木芳博. 75名
- 2014.1.23 千葉県環境行政連絡協議会「自然環境部会研修会：千葉県の自然環境と生物多様性保全研修会」(千葉県立中央博物館) 講師. 中村俊彦. 42名
- 2014.1.23 環境省「特定鳥獣の保護管理に係る研修会」(広島国際会議場) 講座講師. 浅田正彦. 30名
- 2014.1.25 千葉県立中央図書館「企画展「世界遺産」関連講座：富士山の原生林と日本人の心」(千葉県立中央図書館) 講師. 中村俊彦. 50名
- 2014.2.4 千葉県耕作放棄地対策協議会・千葉県鳥獣対策本部「害獣の生態と対策課題」(いすみ市岬公民館) 講座講師. 浅田正彦. 120名
- 2014.2.4 千葉県耕作放棄地対策協議会・千葉県鳥獣対策本部「害獣の生態と対策課題」(印旛合同庁舎) 講座講師. 浅田正彦. 120名
- 2014.2.6 千葉県耕作放棄地対策協議会・千葉県鳥獣対策本部「害獣の生態と対策課題」(鋸南町中央公民館) 講座講師. 浅田正彦. 120名
- 2014.2.6 環境省「千葉県印旛沼水系における特定外来生物カミツキガメの防除体制」(TKP東京駅前カンファレンスセンター) 研修会講師. 高山順子. 50名
- 2014.2.7 美しい作田川を守る会「水域生態系における生物多様性保全の重要性」(八街市中央公民館) 講演. 鈴木規慈. 40名
- 2014.2.22 印旛沼環境基金「平成25年度印旛沼環境基金助成事業報告会」(千葉県印旛合同庁舎) 講師. 高山順子. 50名
- 2014.2.25 千葉県立長生高等学校「生物多様性」(千葉県立長生高等学校) 講座講師. 浅田正彦. 34名
- 2014.3.9 南外房環境クラブ「ミヤコタナゴの保全の方向性と淡水域における生物多様性保全の重要性」(勝浦市役所会議室) 講演. 鈴木規慈. 60名
- 2014.3.13 海匠農業事務所「イノシシの生態と海匠地域における今後のイノシシ対策について」(海匠農業事務所) 講座講師. 浅田正彦. 30名
- 2014.3.18 山武農業事務所「山武地域のイノシシ対策」(山武農業事務所) 講座講師. 浅田正彦. 25名
- 2014.3.19 市原市有害鳥獣対策協議会「イノシシ被害を集落ぐるみの対策で防止する」(市原市農業センター) 講座講師. 浅田正彦. 60名
- 2014.3.20 千葉県農業協同組合中央会「有害鳥獣被害状況と取組み課題について」(農業会館) 講座講師. 浅田正彦. 40名

他機関への支援活動・研究業績等

・視察受入（6件）

2013.6.11 東京都環境局自然環境部計画課.「生物多様性地理情報システムについて」
2013.6.26 山口県環境生活部自然保護課.「生物多様性センターの取組について」
2013.8.22 JICA生物多様性情報システム研修.「生物多様性センターの取組について」
2013.8.29 福岡市環境局環境監理部環境調整課.「生物多様性地域戦略の推進について」
2013.9.19 茨城県生物多様性地域戦略策定委員会・茨城県生活環境部環境政策課.「生物多様性の設置経緯、現状と課題等」
2013.11.6 JICAベトナム国家生物多様性データベースシステム開発プロジェクト研修.「生物多様性センターの取組について」

・研修生受入（1件）

2013.9.24～27, 30 インターンシップ. 東京大学大学院農学生命科学研究科. 1名

○情報発信

・展示等による情報発信（15件）

2013.6.1～2 谷津干潟の日(習志野市) 於：谷津干潟自然観察センター前広場.
2013.6.2 いんざい環境フェスタ(印西市) 於：イオンモール千葉ニュータウン
2013.6.5 ちばし環境フェスティバル(2013ちばし環境フェスティバル実行委員会) 於：千葉市文化センター・アートホール
2013.6.8 ふなばし環境フェア(船橋市環境フェア実行委員会) 於：船橋市中央公民館
2013.6.9 袖ヶ浦市環境フェア(袖ヶ浦市) 於：袖ヶ浦市民会館
2013.6.15 エコフェアいちほら(市原市) 於：市原市勤労会館
2013.6.15 いちかわ環境フェア2013(市川市) 於：県立現代産業科学館
2013.6.15 香取市環境フォーラム2013(香取市) 於：佐原中央公民館
2013.6.17～21 環境月間パネル展(船橋市) 於：船橋市役所
2013.7.20～9.1 昆虫展(八千代市) 於：八千代市郷土博物館

2013.8.3 環境講演会(成田市) 於：成田市役所大会議室
2013.9.28 エコメッセ2013inちば(エコメッセ2013inちば実行委員会) 於：幕張メッセ国際会議場
2013.11.3 いすみふるさとまつり(いすみ市) 於：いすみ市岬運動場
2013.11.3 長南フェスティバル2013(長南町) 於：長南町役場
2013.11.17 富里市第22回リサイクルフェア(富里市) 於：富里中央公園イベント広場

・マスコミを通じての情報発信（31件）

2013.4.3 東葛毎日新聞社ふれあい毎日「里山海からの通信72：桜の開花と温暖化」(中村俊彦)
2013.5.1 東葛毎日新聞社ふれあい毎日「里山海からの通信73a：里海のヒジキ群落と草地の利用、管理」(中村俊彦)
2013.5.3 千葉日報社. 千葉日報. シャープゲンゴロウモドキ. (熊谷宏尚)
2013.5.4 千葉日報社. 千葉日報. ミヤコタナゴ. (熊谷宏尚)
2013.5.5 千葉日報社. 千葉日報. ヒメコマツ. (熊谷宏尚)
2013.5.6 千葉日報社. 千葉日報. ニホンイシガメ. (熊谷宏尚)
2013.5.8 千葉日報社. 千葉日報. 成東・東金食虫植物群落. (熊谷宏尚)
2013.5.9 千葉日報社. 千葉日報. 印旛沼の水生植物. (熊谷宏尚)
2013.5.12 千葉日報社. 千葉日報. 希少種の保護. (熊谷宏尚)
2013.5.25 毎日新聞社. 毎日新聞朝刊. オオキンケイギク. (熊谷宏尚)
2013.6.5 東葛毎日新聞社ふれあい毎日「里山海からの通信73b：不可解な「ジャパニーズマインド」と富士山」(中村俊彦)
2013.6.19 TBSテレビ. Nスタ. カミツキガメ防除事業. (熊谷宏尚・高山順子)
2013.6.19 千葉テレビ. ニュース番組. カミツキガメ防除事業. (熊谷宏尚・高山順子)
2013.6.20 朝日新聞社. 朝日新聞朝刊. カミツキガメ防除事業. (熊谷宏尚・高山順子)
2013.6.20 読売新聞社. 読売新聞朝刊. カミツキガメ

防除事業。(熊谷宏尚・高山順子)

2013.6.20 東京新聞. 東京新聞朝刊. カミツキガメ防除事業。(熊谷宏尚・高山順子)

2013.6.20 千葉日報社. 千葉日報. カミツキガメ防除事業。(熊谷宏尚・高山順子)

2013.6.30 毎日新聞成田支局. 毎日新聞. カミツキガメ防除事業。(熊谷宏尚)

2013.7.3 東葛毎日新聞社ふれあい毎日「里山海からの通信74:三つの生きる力,「自己主張」「外界認識」「環境適応」」(中村俊彦)

2013.8.5 日本テレビ. NEWS24. カミツキガメ防除事業。(熊谷宏尚)

2013.8.7 東葛毎日新聞社ふれあい毎日「里山海からの通信75:冠をかぶった殿様ガエル」(中村俊彦)

2013.9.4 東葛毎日新聞社ふれあい毎日「里山海からの通信76:ススキの変化,金から銅,そして銀へ」(中村俊彦)

2013.9.18 TBSテレビ. Nスタ. カミツキガメ防除事業。(熊谷宏尚・高山順子)

2013.9.19 テレビ朝日. モーニングバード. カミツキガメ捕獲実績。(熊谷宏尚)

2013.10.2 東葛毎日新聞社ふれあい毎日「里山海からの通信77:偉大な実業家「佐藤健太郎」が伝えたもの」(中村俊彦)

2013.10.10 読売新聞社. 読売新聞朝刊. ナガエツルノゲイトウ。(熊谷宏尚)

2013.10.20 テレビ東京. 日曜ビッグバラエティ「駆除の達人6」. カミツキガメ防除事業。(熊谷宏尚)

2013.11.6 東葛毎日新聞社ふれあい毎日「里山海からの通信78:「音の風景」の虫の音」(中村俊彦)

2013.12.4 東葛毎日新聞社ふれあい毎日「里山海からの通信79:子ども木登りの木」(中村俊彦)

2014.2.5 東葛毎日新聞社ふれあい毎日「里山海からの通信80:五葉松のヒメコマツ」(中村俊彦)

2014.3.5 東葛毎日新聞社ふれあい毎日「里山海からの通信81:「富士塚」奥山を身近に」(中村俊彦)

○研究業績等

・中村俊彦

学術報告

中村俊彦. 2013. 生物多様性の主流化と自然誌系博物館の生物多様性基盤. 千葉まちづくりサポートセンター(編), 千葉県立中央博物館への提言及び「生物多様性保全シンクタンクと博物館報告書. pp.91-93. 千葉まちづくりサポートセンター, 千葉市.

中村俊彦. 2014. 都市・里山里海の生物多様性保全:その新たな知見と課題. 千葉県生物多様性センター研究報告7:120-128.

教育普及書

中村俊彦. 2013. 千葉の自然概論. 千葉シニア自然大学テキスト. 平成25年度シニア大学前期テキスト集. pp.9-13. 千葉自然学校千葉シニア自然大学運営事務局, 千葉市.

中村俊彦. 2013. 豊かな谷津の不思議な水環境と巧みな水利用. 河川文化63:22-23.

中村俊彦. 2014. 子どもたちの未来のための里山. NPO 富里のホタル(編), 知ってほしい! 富里のこと. p.17. NPO 富里のホタル, 富里市.

委員等

千葉大学理学研究科客員准教授(景相保全生態学)

東京湾学会副会長

(公財)日本自然保護協会理事

国土交通省関東地方整備局関東エコロジカルネットワーク推進協議会委員及びコウノトリ地域振興・経済活性化専門部会委員

ミュージアムパーク茨城県自然博物館資料評価委員会委員
滋賀県生物多様性地域戦略策定に係わる専門家会議

千葉県県土整備部手賀沼・印旛沼・根木名川圏域流域懇談会委員

千葉県千葉土木事務所都川流域懇談会

千葉県印旛沼流域水循環健全化会議委員

我孫子市谷津ミュージアム事業推進専門家会議議長

千葉市環境審議会委員

船橋市環境審議会委員

市川市環境審議会専門委員

山武市成東・東金食虫植物群落保護検討委員会委員・作業部会

東京都港区緑と水の委員会委員

東京都港区生物多様性推進委員会 副委員長

環境自治体会議環境政策外部評価委員

他機関への支援活動・研究業績等

・熊谷宏尚

委員等

市川市教育委員会 市川市文化財保護審議会委員
一般財団法人自然環境研究センター（環境省） 外来種被害防止行動計画策定会議検討委員

・柴田るり子

教育普及書

柴田るり子. 2013. 調査フォーラムを開催しました！写真コンテストの審査結果、特定外来生物オオキンケイギク、メダカをめぐる最新情報. 生命（いのち）のにぎわい調査団 生命のにぎわい通信(26) 1 - 2. 千葉県自然保護課, 千葉市

柴田るり子. 2013. 現地研修会「夷隅川河口のラグーン干潟と海岸」を開催しました、カニを調べましょう、「キリギリス」「クツワムシ」の生息情報を求めています、大きな蛾を調べてみましょう. 生命（いのち）のにぎわい調査団 生命のにぎわい通信(27) 1 - 2. 千葉県自然保護課, 千葉市

柴田るり子. 2013. 秋から冬の落葉した樹林では「カラ混群」が観察できます、ミサゴとチョウゲンボウ. 生命（いのち）のにぎわい調査団 生命のにぎわい通信(28) 1 - 2. 千葉県自然保護課, 千葉市

柴田るり子. 2013. 平成26年の十二支「午うま」馬. ウマが名前につく生きもの 現地研修会in「手賀沼親水公園」水の館と遊歩道. 生命（いのち）のにぎわい調査団 生命のにぎわい通信(29) 1 - 2. 千葉県自然保護課, 千葉市

柴田るり子. 2013. 生命のにぎわい調査団 調査フォーラムを開催しました！. 生命のにぎわいとつながり（生物多様性ちばニュースレター）. 千葉県自然保護課, 千葉市

柴田るり子. 2013. 生命のにぎわい調査団 現地研修会を開催しました！. 生命のにぎわいとつながり（生物多様性ちばニュースレター）. 千葉県自然保護課, 千葉市

・原田浩

学術論文・学術書

Harada H. 2013. *Agonimia deguchii* (lichenized Ascomycota, Verrucariaceae), a new saxicolous species from central Japan. *Hikobia*16: 307-310..

原田浩. 2013. 地衣類の分類と生活史. 日本菌学会（編）. 菌類の事典. pp. 45-49. 朝倉書店, 東京

原田浩・木下靖浩. 2013. 地衣類の同定. 日本菌学会（編）. 菌類の事典. pp. 413-415. 朝倉書店, 東京

Sakata, A., H. Harada, K. Hara and Y. Yamamoto. 2014. Taxonomic study on the lichen family Roccellaceae (lichenized Ascomycota, Arthoniales) of Japan (3). Corticolous species of Enterographa. *Lichenology*12(1): 1 -30..

Harada H. 2014. *Cresporhaphis chibaensis* sp. nov. (lichenized Ascomycota, Trichosphaeriaceae) from Chiba-ken, central Japan. *Lichenology*12(1): 31-36.

学術報告書

原田 浩（分担執筆）. 2014. 長野県版レッドリスト. ～長野県の絶滅の恐れのある野生動植物～. 長野県環境部自然保護課・長野県環境保全研究所自然環境部（編）224 pp. 長野県環境部自然保護課・長野県環境保全研究所自然環境部, 長野市

教育普及書

原田 浩. 2013. 千葉県の希少種 キンプチゴケ（地衣類）. 生物多様性ちばニュースレター 生命のにぎわいとつながり(35): 4 ..

原田 浩・木下 靖浩・安齊 唯夫・坂田 歩美. 2013. 第38回青空地衣教室（神奈川県伊勢原市阿夫利神社下社）で観察された地衣類. 日本地衣学会ニュースレター(120): 448..

原田 浩・木下 靖浩・安齊 唯夫・坂田 歩美・陶山 舞. 2014. 第12回地衣類観察会（長野県上田市菅平高原）で観察された地衣類. 日本地衣学会ニュースレター(122): 455-456..

坂田歩美・吉川 裕子・原田 浩. 2014. 干支の地衣, 「午（馬）」編. 日本地衣学会ニュースレター(122): 453-454..

研究発表

原田 浩. 2013. 7. 日本産淡水生地衣類（4）. マルゴケ属 *Porina*. 日本地衣学会第12回大会. 京都大学, 京都市
坂田歩美・原田 浩. 2013. 7. 日本産リトマスゴケ科地衣類における子器の形態 —レカノラ型裸子器—. 日本地衣学会第12回大会. 京都大学, 京都市

綿貫 攻・原田 浩・小峰正史・原 光二郎・山本好和. 2013. 7. 日本産樹皮着生広義スミイボゴケ属 (*Buellia* s. l.) 地衣類の分類学的研究（その1）. 日本地衣学会第12回大会. 京都大学, 京都市

木下靖浩・原田 浩. 2013. 7. 千葉県産のレプラゴケ属地衣について—3—. 日本地衣学会第12回大会. 京都大学,

京都市
吉川裕子・原田 浩. 2013. 7. 日本産 “Hypotrachyna adducta” (ゴンゲンゴケ属地衣類) の形態と化学成分. 日本地衣学会第12回大会. 京都大学, 京都市

委員等

長野県環境部 長野県版レッドリスト改訂委員会協力員

・萩野康則

教育普及書

萩野康則. 2013. 千葉県の外来種「ダンゴムシ」. 生命のにぎわいとつながり (生物多様性ちばニュースレター) 34: 4. 千葉県自然保護課, 千葉市.

萩野康則. 2013. 土壌動物が出てくる子どもの本情報 (9). 皆越ようせいさんの児童書2点と一般書1点の紹介. だるま通信60: 12-17. 日本土壌動物学会, つくば市.

萩野康則. 2013. 私の図書館児童室利用法ー博物館学芸員の立場からー. こどもの図書館60(8): 1. 児童図書館研究会, 東京.

萩野康則. 2013. ダンゴムシの科学絵本. こどもの図書館60(9): 6-8. 児童図書館研究会, 東京.

萩野康則. 2013. 土壌動物ー落ち葉の下にひっそりと住む生きものたちー. 生命のにぎわいとつながり (生物多様性ちばニュースレター) 35: 1-3. 千葉県自然保護課, 千葉市.

萩野康則. 2014. 千葉県の外来種「セアカゴケグモ」. 生命のにぎわいとつながり (生物多様性ちばニュースレター) 36: 4. 千葉県自然保護課, 千葉市.

萩野康則. 2014. 連携大学の研究成果発表会を開催. 生命のにぎわいとつながり (生物多様性ちばニュースレター) 37: 3-4. 千葉県自然保護課, 千葉市.

萩野康則. 2014. 初心者でも使える最高のクモ図鑑. 中央博物館だより. 71: 4. 千葉県立中央博物館, 千葉市

委員等

日本土壌動物学会 評議員

千葉県環境生活部自然保護課 千葉県希少生物及び外来生物に係るリスト作成委員会委員

環境省 希少野生動植物種保存推進員

・浅田正彦

学術論文・学術書

浅田正彦・寺田徹. 2013. 空閑地・空き家と生物多様性ー野生動物と人間生活が重複する空間をどう考えるかー.

Evaluation (50): 7-12.

大井徹・河村正二・竹ノ下祐二・浅田正彦・山田文雄. 2013. 千葉県の外来種アカゲザル問題を考える. 霊長類研究. 29:137-171.

浅田正彦. 2013. ニホンジカとアライグマにおける低密度管理手法「遅滞相管理」の提案. 哺乳類科学53:243-255.

学術報告書

浅田正彦. 2014. 千葉県におけるニホンジカのベイズ法による個体数推定 (2012年度). 千葉県生物多様性センター研究報告8: 1-14. 千葉県環境生活部自然保護課, 千葉市

浅田正彦. 2014. 千葉県におけるニホンジカの捕獲状況および栄養状態モニタリング (2012年度). 千葉県生物多様性センター研究報告8:15-22. 千葉県環境生活部自然保護課, 千葉市

浅田正彦. 2014. 千葉県におけるキョンのベイズ法による個体数推定 (2012年度). 千葉県生物多様性センター研究報告8:23-36. 千葉県環境生活部自然保護課, 千葉市

浅田正彦. 2014. 千葉県におけるキョンの体重と繁殖状況ー2008～2012年度 県試料回収事業のまとめー. 千葉県生物多様性センター研究報告8:37-40. 千葉県環境生活部自然保護課, 千葉市

浅田正彦. 2014. 千葉県における捕獲従事者数の将来予測ー2012年度狩猟登録者の分析ー. 千葉県生物多様性センター研究報告8:41-44. 千葉県環境生活部自然保護課, 千葉市

教育普及書

浅田正彦. 2013. いっぱいいるのに, なぜ守るの?ーサルとカメに迫る危機「遺伝子浸透」ー. 生命のにぎわいとつながり (生物多様性ちばニュースレター) (34): 1-3. 千葉県自然保護課, 千葉市.

委員等

国立環境研究所 研究協力

千葉県ニホンイシガメ保護対策協議会 助言者

君津市農業事務所 アドバイザー

八千代市 谷津・里山保全・活用推進会議委員

日本哺乳類学会 哺乳類保護管理委員会副委員長

高知県 シカ対策委員会委員

東京都 特定外来生物キョン防除対策検討会委員

・高山順子

教育普及書

高山順子. 2014. 特定外来生物カミツキガメの問題と対

他機関への支援活動・研究業績等

策について.ワイルドライフ・フォーラム18(2): 8-9.「野生生物と社会」学会,東京

高山順子. 2014.印旛沼水系におけるカミツキガメ防除の取り組み. RIVERFRONT (78): 14-17.公益財団法人リバーフロント研究所,東京

高山順子. 2014.千葉県の希少種ハマガニ（モクズガニ科）.生命のにぎわいとつながり（生物多様性ちばニュースレター）(37): 4.千葉県自然保護課,千葉市

研究発表

高山順子. 2013.11.06.千葉県で繁殖しているカミツキガメの防除."第16回自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC16）.能登空港ターミナルビル,輪島市

・鈴木芳博

教育普及書

鈴木芳博. 2013.生物多様性の巡回展を開催しました.生命のにぎわいとつながり（生物多様性ちばニュースレター）(34): 3-4.千葉県自然保護課,千葉市

鈴木芳博. 2014.第11回企業と生物多様性セミナーを開催しました.生命のにぎわいとつながり（生物多様性ちばニュースレター）(36): 3.千葉県自然保護課,千葉市

鈴木芳博. 2014.地域文化と動植物（⑤落花生）生命のにぎわいとつながり（生物多様性ちばニュースレター）(36): 3-4.千葉県自然保護課,千葉市

・鈴木規慈

学術論文・学術書

Junjiro N. Negishi, Masashi Soga, Nobuo Ishiyama, Noriyasu Suzuki, Teruaki Yuta, Masanao Sueyoshi,

Chitose Yamazaki, Itsuro Koizumi, Shigeru Mizugaki, Kazufumi Hayashida, Masanori Nunokawa, Nobuhiko Yoshimura. 2014. Geomorphic legacy controls macrophyte distribution within and across disconnected floodplain lakes. Freshwater Biology 59(5): 942-954.

教育普及書

鈴木規慈. 2014.千葉県の希少種（メダカ）.生命のにぎわいとつながり（生物多様性ちばニュースレター）(33): 4.千葉県自然保護課,千葉市

鈴木規慈. 2014.気がつけば絶滅種？かつての普通種「ゼニタナゴ」の悲劇.生命のにぎわいとつながり（生物多様性ちばニュースレター）(36): 1-2.千葉県自然保護課,千葉市

研究発表

鈴木規慈・向井良行・大塚泰介・畠山絵美・原田泰志. 2013.10.ため池におけるカワバタモロコの食性.第46回日本魚類学会年会.宮崎観光ホテル

鈴木規慈・畠山絵美・牛島和広・阿部司・金尾滋史. 2014.3.絶滅危惧種カワバタモロコの積極的保全におけるビオトープの有効性.日本生態学会第61回全国大会.広島国際会議場

苅部治紀・西原昇吾・鈴木規慈. 2014.3.これでいいの？水辺の外来生物.日本生態学会第61回全国大会.広島国際会議場

千葉県生物多様性センター 年報 6

平成26年12月発行

発 行 千葉県環境生活部自然保護課

編 集 千葉県環境生活部自然保護課自然環境企画室
生物多様性センター

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2（県立中央博物館内）

電話：043-265-3601 ファクシミリ：043-265-3615

URL <http://www.bdcchiba.jp>

印 刷 株式会社 さくら印刷（千葉県茂原市下永吉399-1）

